

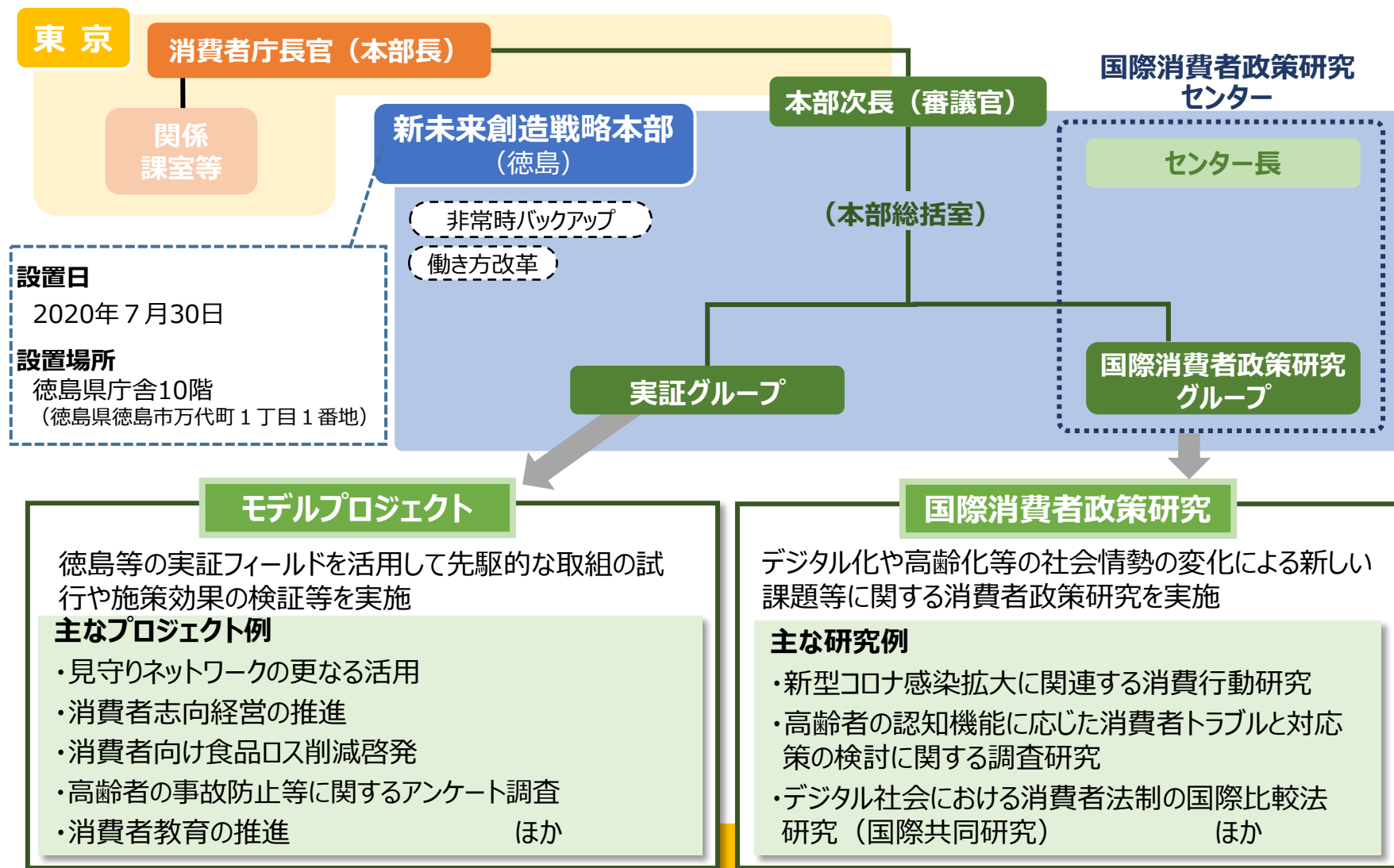
高齢者の事故防止等に関するアンケート調査

令和6年9月4日

消費者庁新未来創造戦略本部



消費者庁 新未来創造戦略本部の組織と取組



プロジェクトや研究の成果は国際シンポジウム等により世界に発信

背景・目的

背景

- ・日本の65歳以上人口（3,624万人）は増加傾向、高齢化率は29.0% ※1
- ・不慮の事故で死亡した人の数（2.7万人）（交通事故、自然災害を除く）※2
⇒高齢者の割合は8割以上、増加傾向
- ・救急搬送の半数以上は高齢者 ※3
4割以上が初診時に中等症（入院が必要）以上、その割合は高齢になるにつれて増加
- ・けがをしそうになった経験等、事故件数に計上されない事案に関する公的な調査データはない。
⇒未来本部における「住環境における高齢者の安全等に関する調査」（令和4年度）では、高齢者本人への調査であったことから回答数が少なく、調査手法に限界 ※4
- ・75歳以上の高齢者（後期高齢者）は65～74歳の高齢者（前期高齢者）と比べ、フレイル（年をとって体や心の働き、社会的なつながりが弱くなった状態）になりやすい傾向 ※5
- ・75歳以上は要介護の認定を受ける人の割合が大きく上昇 ※1

実施した内容

- ・高齢者の事故防止のため、75歳以上で要介護認定を受けている高齢者の家庭や介護施設等での事故の特徴について明らかにし、注意喚起の基礎資料とするため、以下の調査を実施。
- ・インターネットアンケート調査（75歳以上の要介護者を見守る者に、要介護者の自宅や外出先、介護施設等での事故等の経験を調査）
- ・ヒアリング調査（要介護者の実態について知見をもつ、徳島県介護支援専門員協会にてヒアリング）

（※1）内閣府「令和5年版高齢社会白書」（※2）消費者庁「高齢者の事故の状況について―「人口動態調査」調査票情報及び「救急搬送データ」分析―」

（※3）東京消防庁「救急搬送データからみる高齢者の事故～日常生活での高齢者の事故を防ぐために～」（※4）消費者庁「住環境における高齢者の安全等に関する調査」

（※5）厚生労働省「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する有識者会議報告書」

インターネットアンケート調査

調査概要

調査期間	令和5年10月31日（火）～令和5年11月14日（火）		
調査対象者	過去2年間に於いて、75歳以上かつ要介護認定（1～3）を受けている方と同居している、または同居していた者		
回答者数	1,000人		
割り付け	年齢	東京23区または政令指定都市 ※7	334人
		中核市 ※8	333人
		それ以外の都市	333人

（※7）札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市

（※8）函館市、旭川市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市、郡山市、いわき市、水戸市、宇都宮市、前橋市、高崎市、川越市、川口市、越谷市、船橋市、柏市、八王子市、横須賀市、富山市、金沢市、福井市、甲府市、長野市、松本市、岐阜市、豊橋市、岡崎市、一宮市、豊田市、大津市、豊中市、吹田市、高槻市、枚方市、八尾市、寝屋川市、東大阪市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、倉敷市、呉市、福山市、下関市、高松市、松山市、高知市、久留米市、長崎市、佐世保市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市

インターネットアンケート調査

回答者の基本情報

性別	「男性」(65.2%)、「女性」(34.7%)
年齢	「30代以下」(39.7%)、「40代」(11.4%) 「50代」(32.6%)、「60代」(39.7%) 「70代以上」(10.2%)

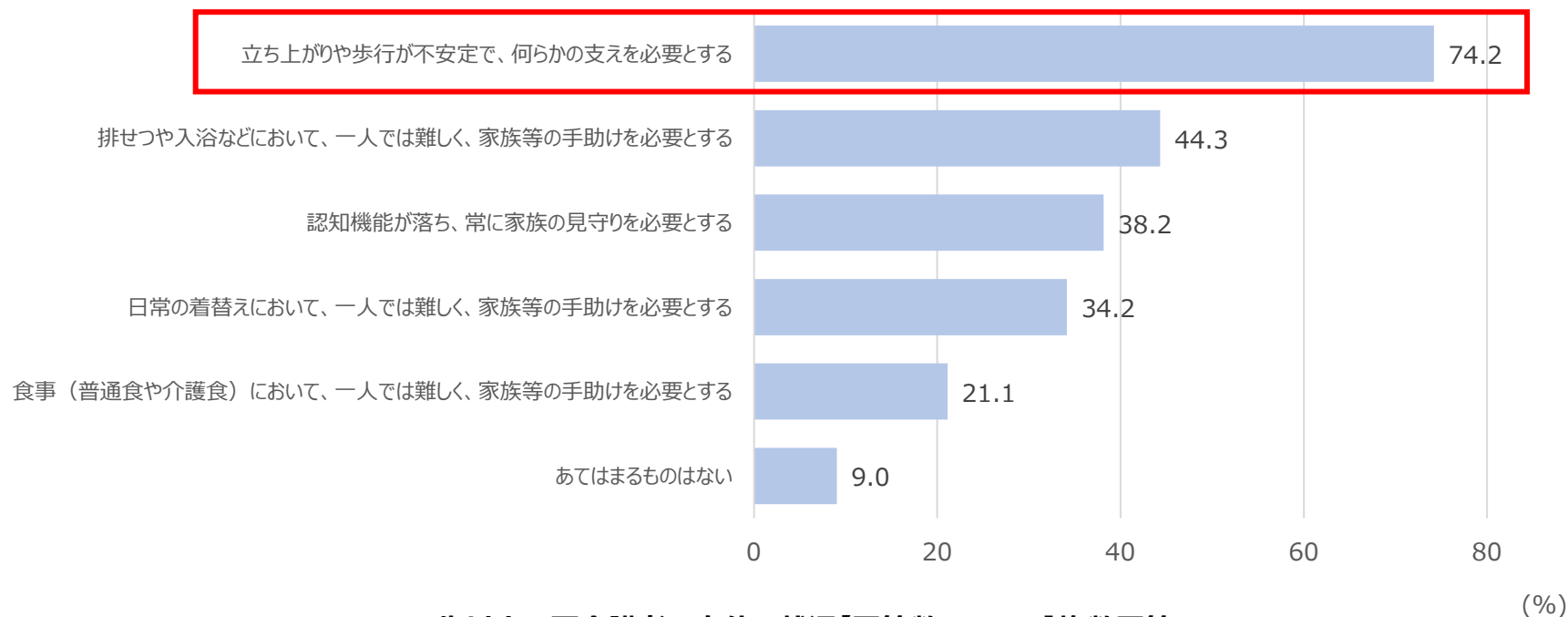
同居している、していた高齢者の基本情報

性別	「男性」(31.4%)、「女性」(68.6%)
年齢	「75～79歳」(11.6%)、「80～84歳」(18.7%) 「85～89歳」(30.1%)、「90～94歳」(31.1%) 「95～99歳」(7.8%)、「100歳以上」(0.7%)
高齢者の要介護度	「1」(35.6%)、「2」(37.0%)、「3」(27.4%)
通所介護（デイサービス）の利用回数	「週1回」(11.1%)、「週2回」(24.0%) 「週3回」(19.5%)、「週4回以上」(16.7%) 「利用していない」(28.3%)、「回答しない」(0.4%)

主な調査結果 ①身体 の 状況

アンケートの結果

・調査対象となった高齢者の身体状況で最も多かったのは、「立ち上がりや歩行が不安定で、何らかの支えを必要とする」であった。

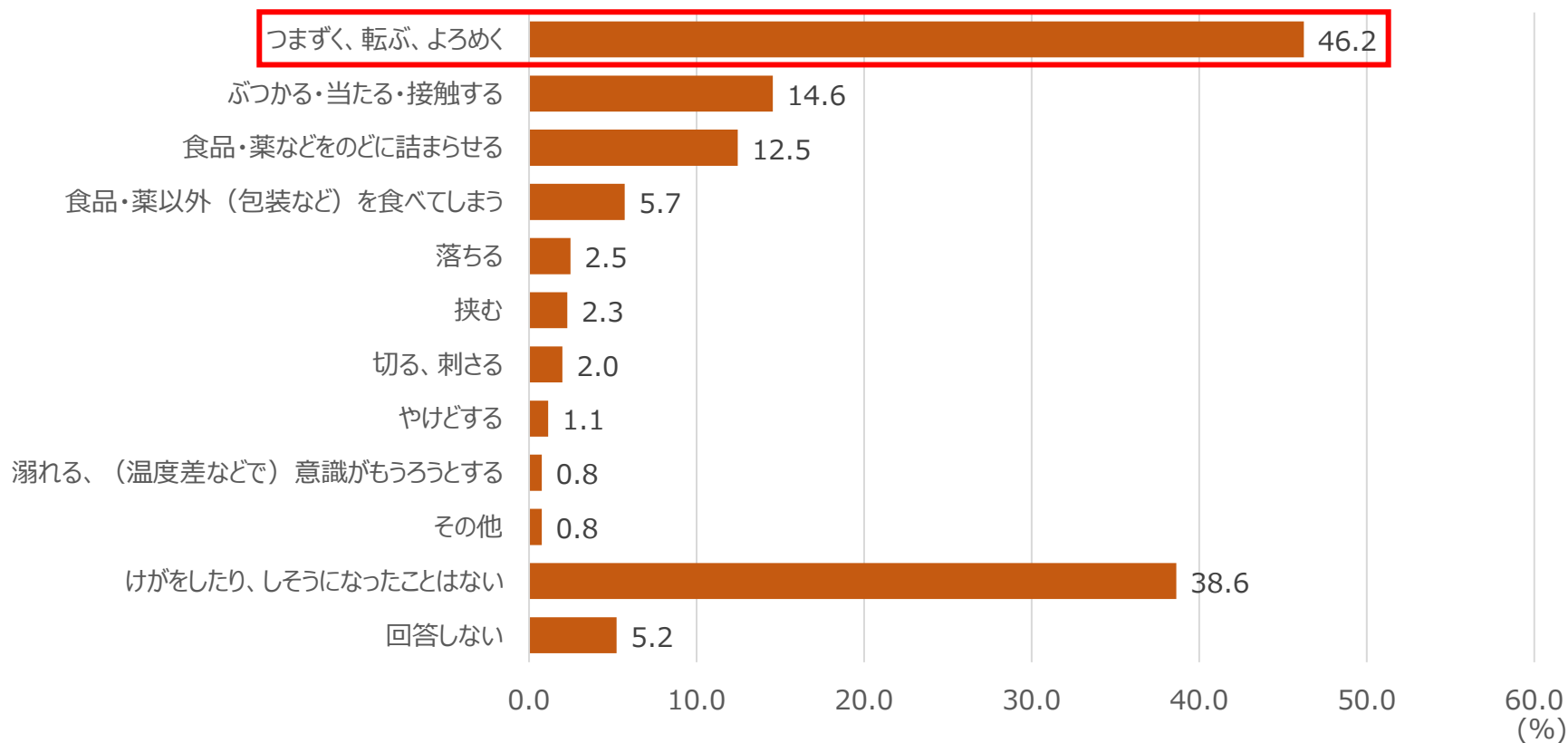


主な調査結果

②けがをした、またはしそうになった経験（屋内）

場所ごとに調査を実施

- ・屋内・・・居間、寝室、台所・食堂、洗面所、風呂場、玄関、階段、トイレ、廊下
- ・どの場所においても、「つまづく、転ぶ、よろめく」が最も多い。



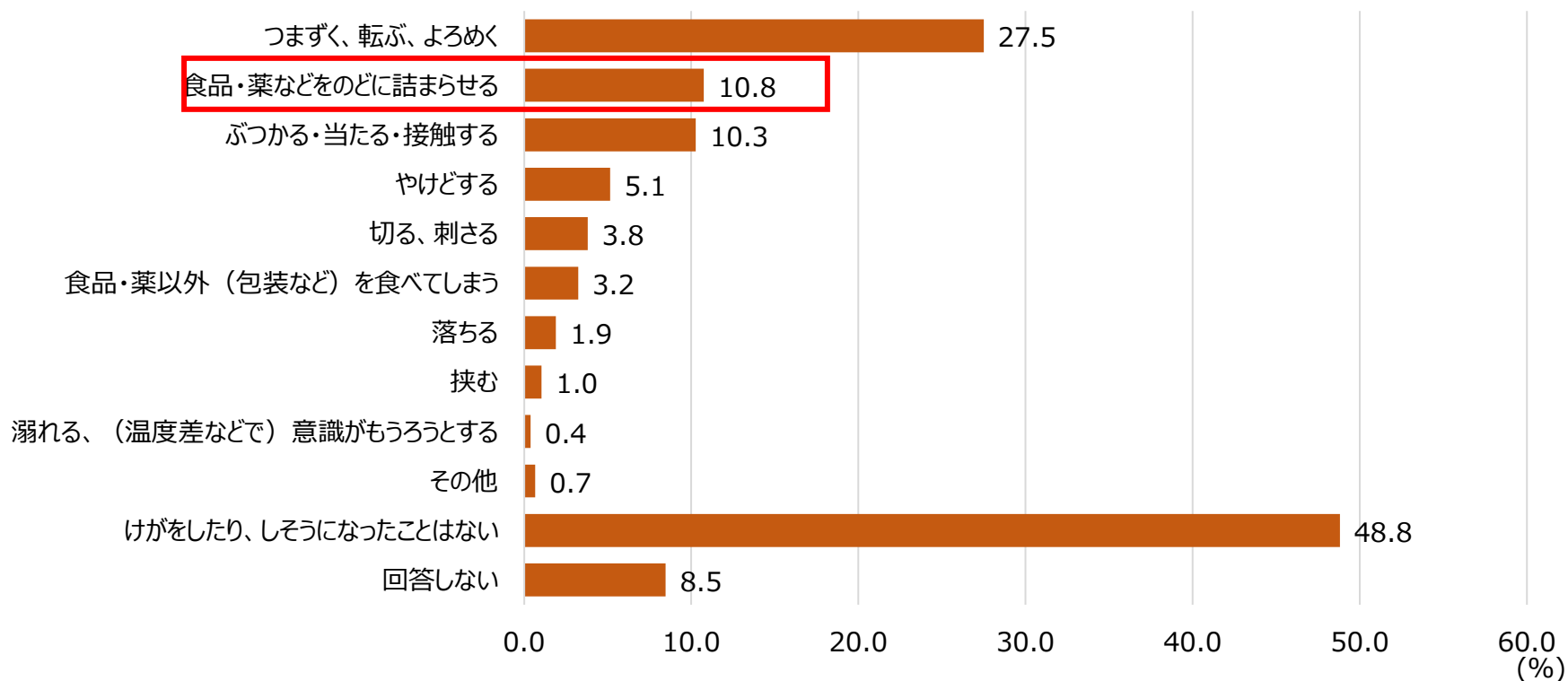
居間においてけがをした、またはしそうになった経験【回答数 = 1051】複数回答

主な調査結果

②けがをした、またはしそうになった経験（屋内）

場所ごとに調査を実施

・屋内・・・台所・食堂においては「つまづく、転ぶ、よろめく」について、「食品・薬などをのどに詰まらせる」が多くなっている。



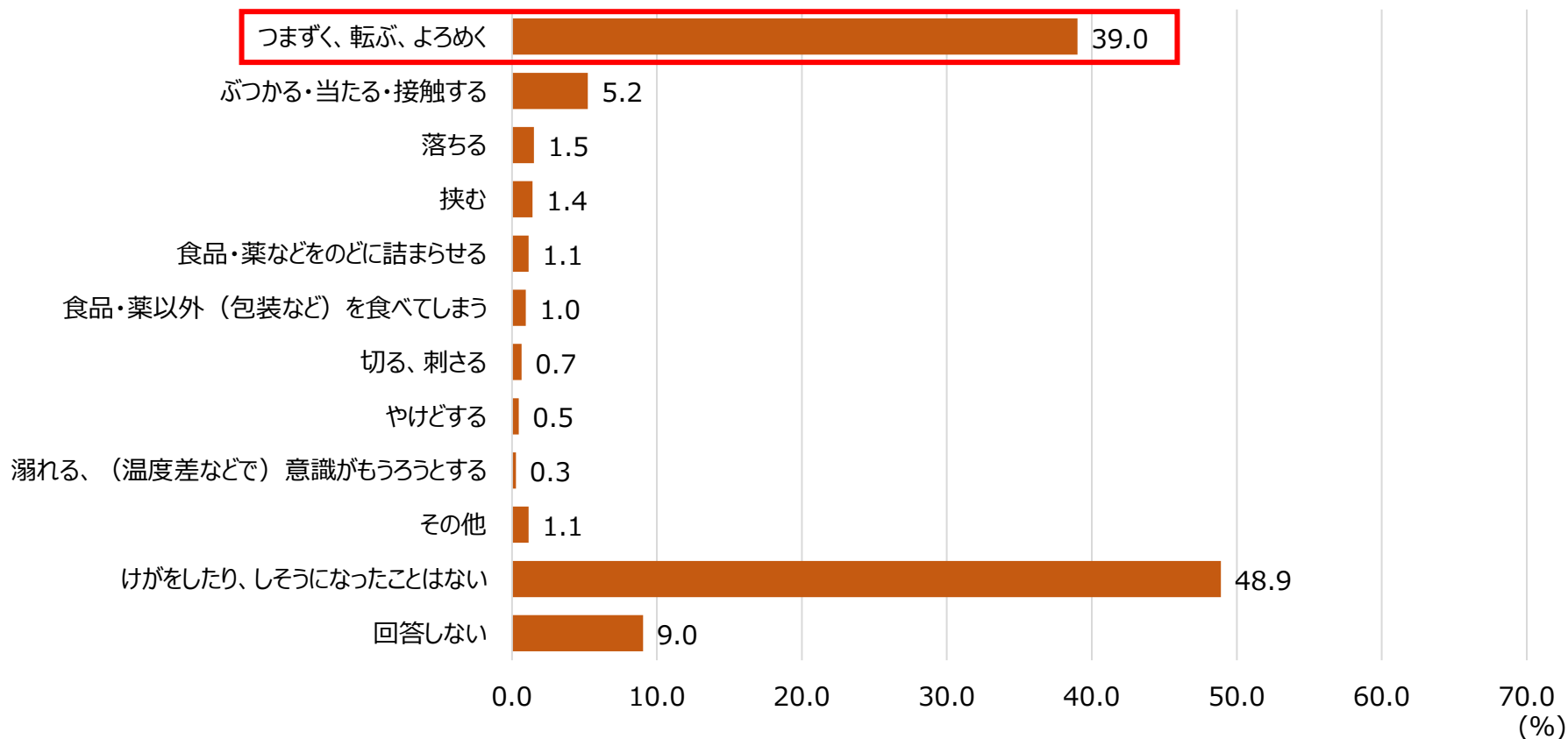
台所・食堂においてけがをした、またはしそうになった経験【回答数=1051】複数回答

主な調査結果

③けがをした、またはしそうになった経験（屋外）

場所ごとに調査を実施

- ・屋外・・・自宅の庭、公園、道路、階段、公共交通機関利用時、店舗商業施設
- ・屋内と同じく、どの場所においても「つまずく、転ぶ、よろめく」が最も多い。

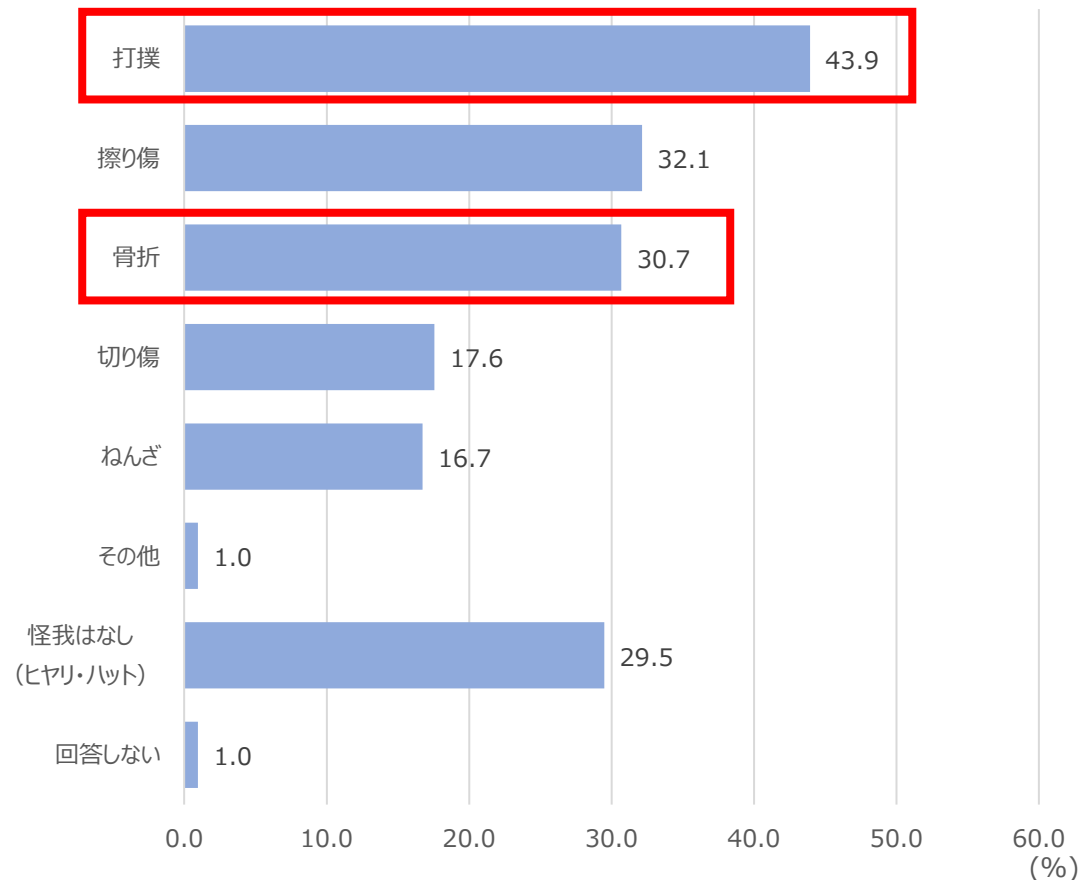


道路においてけがをした、またはしそうになった経験【回答数=1051】複数回答

主な調査結果 ④けがをしたり、しそうになった時の結果

「つまづく、転ぶ、よろめく」、「落ちる」、「ぶつかる・当たる・接触する」について調査

・どの項目においても、「打撲」が最も多いが、「つまづく、転ぶ、よろめく」では「骨折」も多いことから、注意が必要。

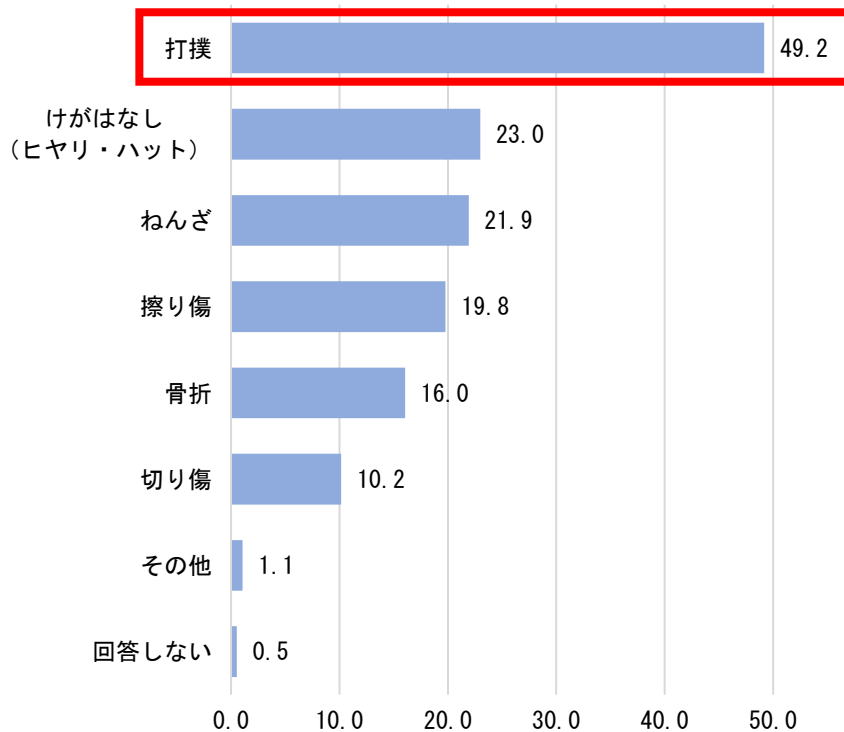


けがをしたり、しそうになった時の結果
(つまづく、転ぶ、よろめく)【回答数=831】複数回答

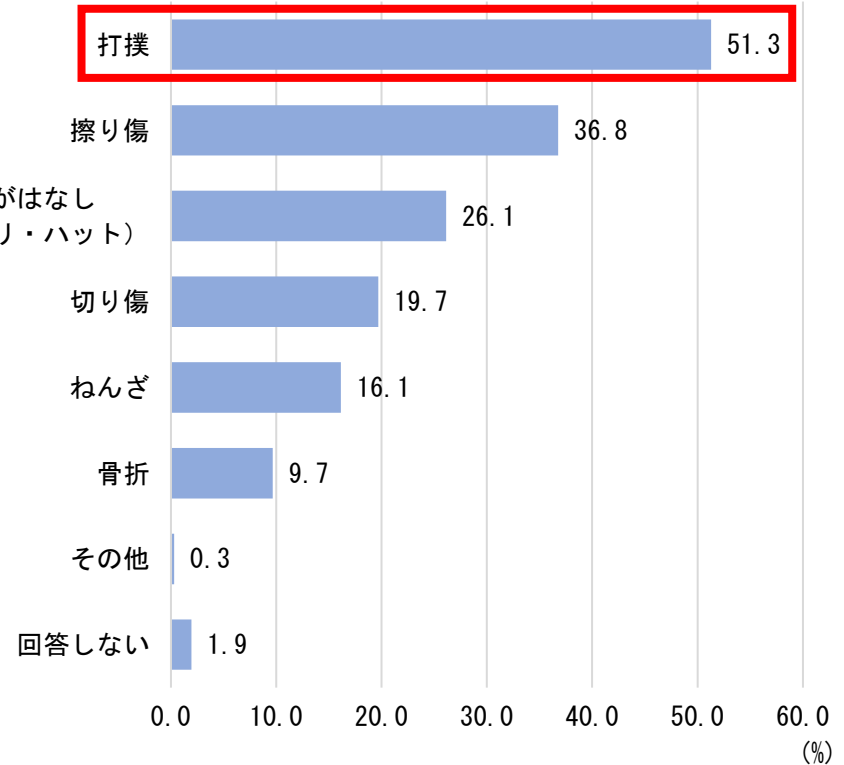
主な調査結果 ④けがをしたり、しそうになった時の結果

「つまずく、転ぶ、よろめく」、「落ちる」、「ぶつかる・当たる・接触する」について調査

・「落ちる」、「ぶつかる・当たる・接触する」ともに、「打撲」が最も多い。



けがをしたり、しそうになった時の結果
(落ちる)【回答数=187】複数回答

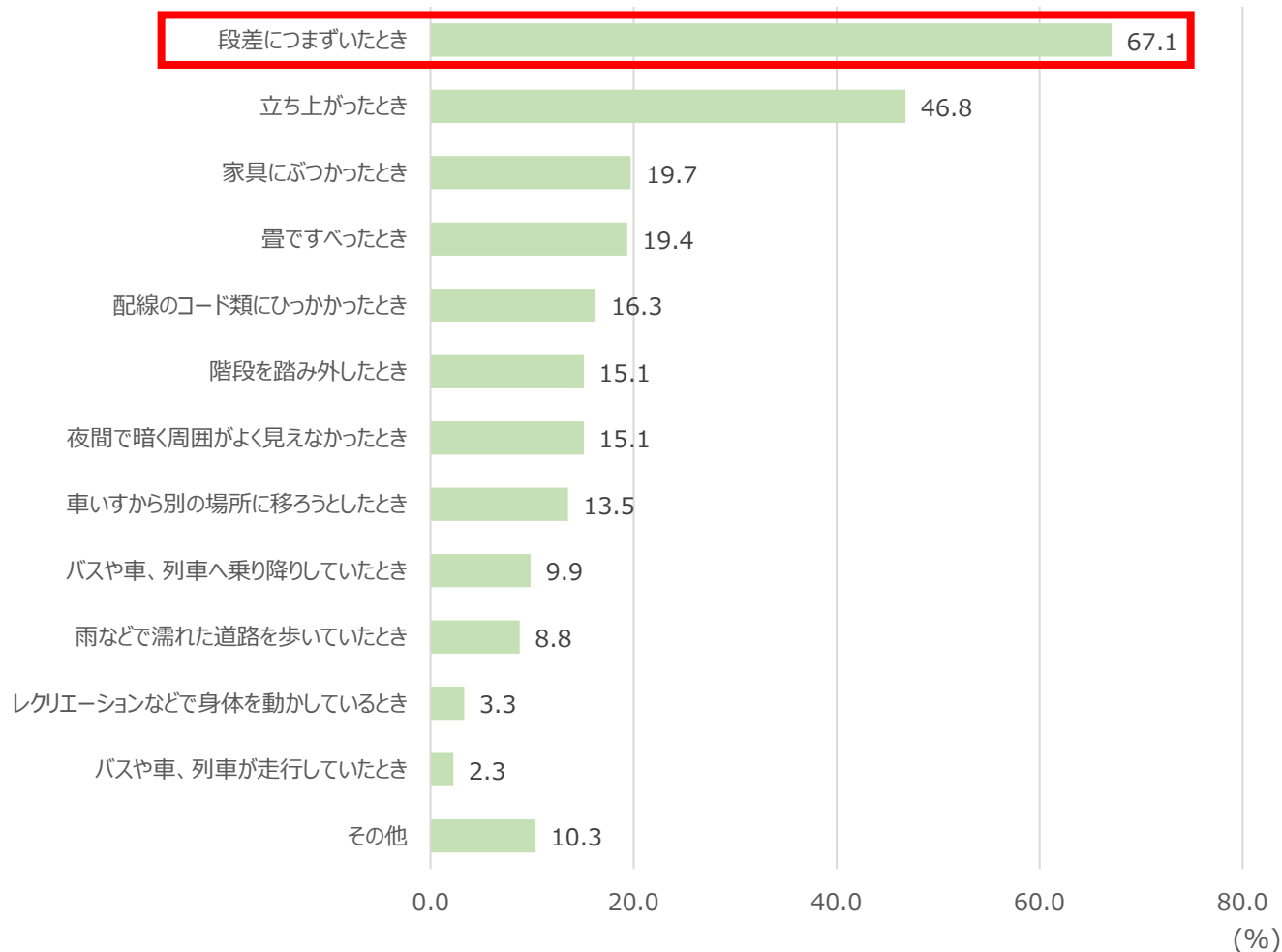


けがをしたり、しそうになった時の結果
(ぶつかる・当たる・接触する)
【回答数=310】複数回答

主な調査結果 ⑤転倒したり、しそうになった時の状況

「つまづく・転ぶ・よろめく」、「落ちる」について調査

・「段差につまずいたとき」が最も多い。次いで、「立ち上がったとき」が多い。

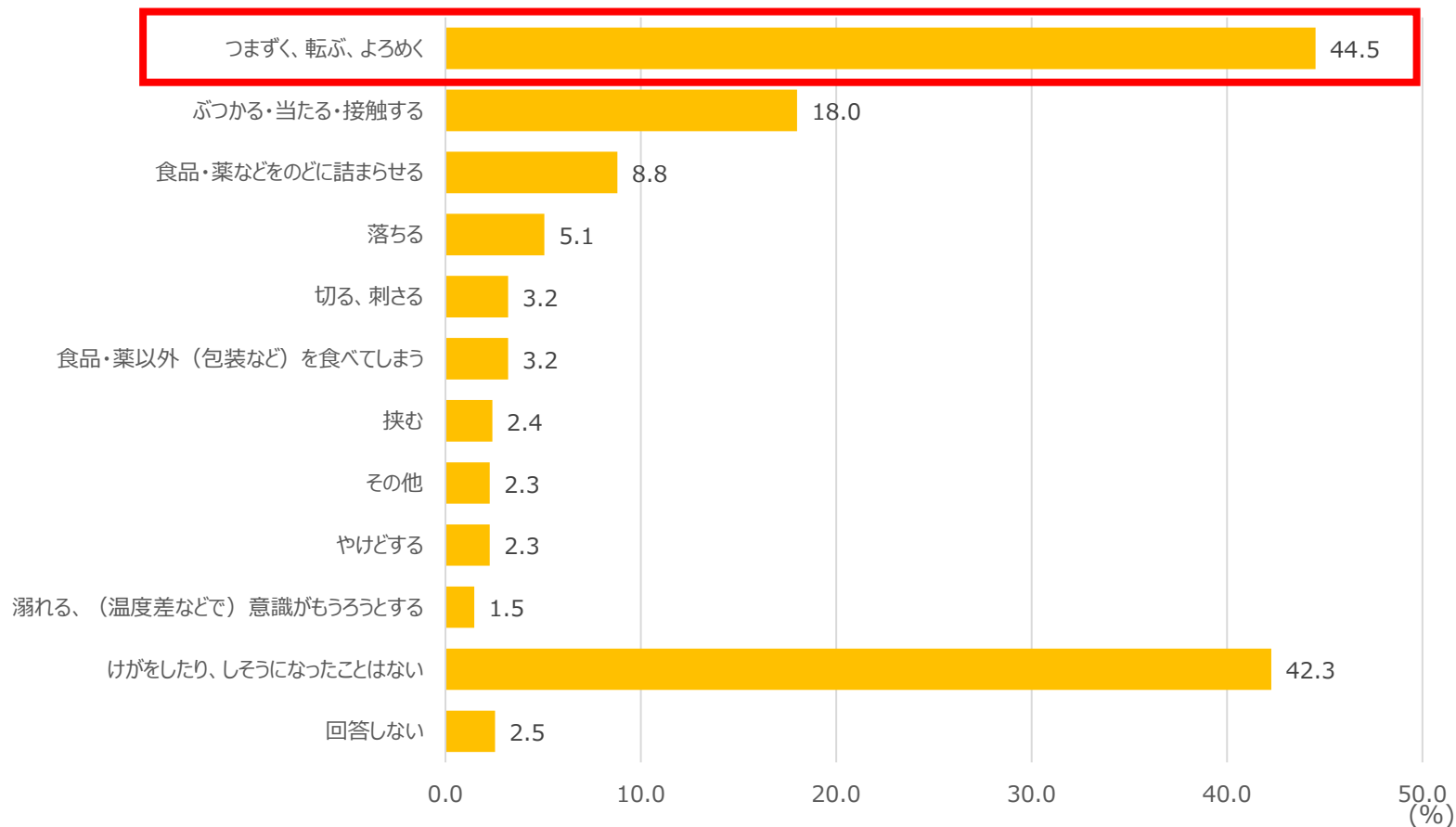


転倒したり、しそうになった時の状況【回答数=842】複数回答

主な調査結果 ⑥デイサービス利用中のけが等

デイサービスを利用している方のみ回答

・デイサービス利用中にけがをしたり、しそうになった経験で最も多いのは、「つまづく、転ぶ、よろめく」であった。



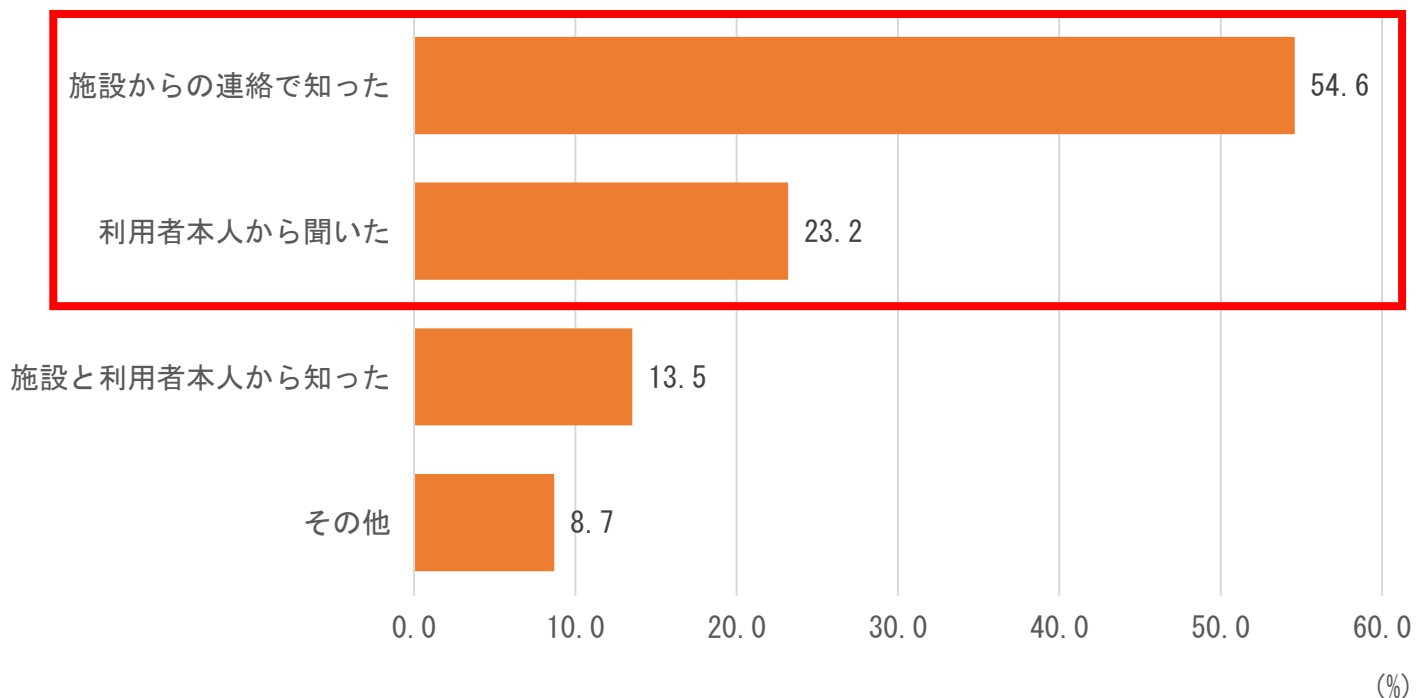
デイサービス中にけがをした、またはしそうになった経験【回答数=750】複数回答

主な調査結果

⑦デイサービス利用中のけが等を知ったきっかけ

デイサービスを利用中にけが等があった場合のみ回答

・「施設からの連絡で知った」が最も多くなったが、「利用者本人から聞いた」も一定程度回答があった。



デイサービス利用中のけが等を知ったきっかけ【回答数=414】

主な調査結果 ⑧通院・入院が必要となった具体的な事例

段差につまづいたとき

- ・自宅内でベッドから起き上がってトイレに行こうとした時、ほんのわずかな段差につまづいて転倒し足首骨折。
- ・玄関の段差でつまずき、とっさに手をつき左上腕部を骨折した。
- ・ウォーキング中に歩道の段差（ブロックのズレ）につまづいて転倒、肘と膝を骨折し手術入院した。
- ・駐車場の車止めに足を取られて骨折して入院した。

立ち上がったとき

- ・台所で椅子から立ち上がろうとしたら、お尻がずれて床にお尻をついて尾てい骨が骨折した。
- ・自室でベッドから起きあがろうとして、ベッドから転倒し。腕の肘を強打。肘を骨折して手術入院した。
- ・トイレから立ち上がる時にバランスを崩して前のめりに転倒して大腿骨を骨折した。

主な調査結果 ⑧通院・入院が必要となった具体的な事例

福祉用具使用時

- ・杖を使って廊下を歩き途中の扉を開けたときに、扉の間に杖が引っかかり転倒し入院。
- ・電車の踏切で杖が線路の間に挟まり転倒した際、手とひざを打撲。
- ・車イスから落ちて大腿骨を骨折。

デイサービス利用時

- ・デイサービスの車に乗るとき、ステップに足を引っ掛け、ステップで足をすりむき救急搬送となった。
- ・デイサービス施設にて他人の歩行器が通路をふさぎ、つまずき骨折。
- ・デイサービス先でトイレに行こうとして椅子から立ち上がろうとした時に、お尻から床に落ち、あばら骨を圧迫骨折。

ヒアリング調査

調査概要

調査日	令和6年2月6日（火）
調査者	徳島県介護支援専門員協会に依頼し、協力いただくこととなった介護支援専門員や看護師等
場 所	徳島県介護支援専門員協会事務所

主なヒアリング結果（転倒について）

- ・高齢者は一人でいるときに転倒する可能性があるのは大前提として考えており、そのうえで転ばないようにするにはどうするかを検討している。
- ・看護の立場からも、転倒によって骨折のリスクが高まり、寝たきりになる可能性があると考えているので、環境整備は必要かと思う。
- ・介護の立場から、立ち上がったり、方向転換したりするときによろけるので、高齢者が立った瞬間から職員が気に掛ける。
- ・転倒しても被害を小さくしたり、転倒した後ほったらかしにならないための対策が重要。

対策例 被害を小さくする・・・高さの低いベッド（超低床ベッドなど）、クッション材の利用
転倒時ほったらかしにしない・・・警備会社やセンサーの利用

ヒアリング調査

主なヒアリング結果（福祉用具について）

- ・理学療法士等の専門家が福祉用具の杖の高さやじゅうたんの設計を評価することで、事前に転倒防止ができると思われる。車いすや歩行器は個人の身体状況等に応じて多様な製品が作られており、評価が難しいのが実情。専門家でないと何が適正か判断するのは難しい。

主なヒアリング結果（食事について）

- ・在宅介護でも体の位置や動かし方、食品の形状のアドバイスはしている（食品を小さく刻むなど）。誤嚥しにくくなるような食事用具などもあるので、パンフレットで紹介したりしている。
- ・1日3食ではなく、少量にして複数回の食事をとらせると誤嚥防止となる。
- ・トイレの回数を減らすため、水分摂取を少なくしてしまう高齢者も多く、その状態で食べることでリスクが上がる。

主なヒアリング結果（その他）

- ・当方では、転倒があれば事故報告書を作成して、早急に家族にも伝える。後になって症状が出てくる場合もあるので、先に伝える。

調査結果のまとめ

屋内外のけがの経験

- ・けがをしたり、しそうになった経験で最も多かったのは、屋内外ともに「つまずく、転ぶ、よろめく」であった。
- ・けがをしたり、しそうになった時の結果で最も多かったのは打撲であった。しかし、特に事故経験の多い「つまずく、転ぶ、よろめく」においては骨折も多い。
- ・転倒したり、しそうになった時の状況で最も多いのは「段差につまずいたとき」であった。

デイサービス中のけがの経験

- ・デイサービス利用中にけがをしたり、しそうになった時のきっかけで最も多かったのは、屋内外と同じく、「つまずく、転ぶ、よろめく」であった。

通院・入院が必要となった具体的な事例

- ・病院に通院したり、入院した例で多く見られたのが、骨折であった。その原因として最も多くみられたのは転倒であった。

ヒアリング調査

- ・要介護の高齢者は一人のときに事故のリスクが高いこと、転倒は起こるものとして、転倒しない対策だけでなく、転倒しても被害を小さくする対策を検討する旨の意見が聞かれた。



転倒事故のリスクの高さが示された。

リスクを知り、重大な被害を防ぐべく、環境改善や対策の取組が重要。